

主治医・杉田先生へ
治療について

多分先生が最後まで診てくださると思いますので、治療について望むことを言っておきたい
と思います。先生が一番わたしの症状に適しているとお思いになる方法で治療してください。
主人はいろいろな最新治療も考えているようですが、わたしは自分の治療のために必要以上
にお金と時間をかけるつもりはありません。そんなことをして少し長く生きたところで、わたしに
いったい何ができるでしょうか。もう人生においてやりたいこと、やるべきことはしたと思ってい
ます。これ以上自分に過剰投資する価値はないです。

わたしが望むことは今の生活をなるべく壊さず、生きられるところまで生きることです。週二
日の仕事、趣味の油絵、孫のお迎えと少々のボランティア活動という平凡な生活です。職場
に迷惑をかけない範囲で社会参加はしていきたいのです。

生きるために治療しているのか、治療のために生きているのかわからないような生活は嫌
です。そういう意味からも末期の延命治療はしないでください。わたしの肺が自分で呼吸し、
心臓が自分で脈打ち、自分の口から食べ物を摂ることができなくなったら、静かに終わらせて
ください。でも、わたしは弱いから、痛みには耐えることができないと思うので、その辺のところ
はよろしく願います。「死」そのものは怖くないけど、それにいたる「痛み」は怖いです。

先生、わたしは決して諦めてしまったのではありません。癌ができて、マーカーが上がって
きたら、抗がん剤で叩くという治療は効果があれば、続けていく覚悟はしています。どの程度
の時間になるのかわかりませんが、お付き合いください。

前川美和

前川美和

2011年 6月20日